

平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 株式会社アークン
代表者名 代表取締役社長 蛭間 久季
(コード番号：3927、東証マザーズ)
問合せ先 取締役経営企画室長 佐藤 敏和
(TEL. 03-5825-9340)

平成 29 年 3 月期通期業績予想値と実績との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月 14 日に開示いたしました平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）の業績予想値と、平成 29 年 3 月期の決算値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、特別損失を計上することといたしましたので、合わせてお知らせいたします。

記

1. 業績予想値と決算値との差異

平成 29 年 3 月期通期業績（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想 (A)	百万円 597	百万円 △137	百万円 △139	百万円 △144	円銭 △36.56
今回発表実績 (B)	609	△110	△112	△357	△90.42
増 減 額 (B-A)	11	27	26	△213	-
増 減 率 (%)	1.9	-	-	-	-
(参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	980	129	127	71	20.18

2. 差異の理由

売上高が予想を上回った一方、引当金繰入額等が想定を下回ったことや経費の削減により、営業利益及び経常利益が予想を上回りました。

また、当期純利益につきましては、下記 3. に記載のとおり特別損失を計上したことにより、

減少いたしました。

3. 特別損失の計上について

次の通り特別損失として 238,017 千円を計上いたします。

(1) 固定資産減損損失の計上について

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社は固定資産（建物、工具、器具及び備品、ソフトウェア）について、営業活動から生じる損益が継続してマイナスとなる見込みであることから、減損の兆候を共用資産を含むより大きな単位で検討し、帳簿価額を使用価値に基づいた回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上することが妥当であると判断いたしました。

上記の判断に基づき、平成 29 年 3 月期において減損処理を行い、固定資産減損損失として 33,853 千円を計上いたします。

(2) 投資有価証券評価損の計上について

当社は平成 28 年 12 月 28 日に、パワードプロセスコンサルティング株式会社発行の無担保転換社債型新株予約権付社債の引受を行い、同社と資本・業務提携を締結しております。

しかしながら、平成 29 年 1 月～3 月における同社の事業進捗状況を踏まえ、同社が立案しました事業計画は大きく遅延する可能性が高いとの判断に至りました。

その結果、当社が引受けた同社の社債の実質価額が著しく低下しましたため、減損処理を行い、201,099 千円の投資有価証券評価損を計上いたします。

また、当社が保有する非上場株式についても 3,063 千円の減損処理を行うため、合わせて 204,163 千円の投資有価証券評価損を計上いたします。

なお、当社は、平成 28 年 12 月 28 日に締結したパワードプロセスコンサルティング株式会社との資本・業務提携を持続的な成長を維持するための重要な戦略として位置づけ、販路の拡大や製品の共同開発に向けて協議を行って参りました。平成 29 年 3 月期において、会計上は減損処理を行うものでありますが、今後も当該社債を継続保有し、同社の事業進捗と業績状況の把握に努めながら、新規販路の開拓、新製品及び新事業の開発等の業務提携を推進して参ります。

当該投資有価証券評価損及びパワードプロセスコンサルティング株式会社との資本・業務提携に関する今後の見通しにつきましては、詳細な補足説明を、後日開示させていただきます。

今回開示しました特別損失の計上に関しては、非現金支出費用であります。

以 上